保安管理業務訓練実施計画書

　　年　　月　　日

経済産業省大臣官房技術総括・保安審議官　殿

住　所

氏　名（名称並びに代表者の役職及び氏名）

（法人番号：00000000000000）

平成十五年経済産業省告示第二百四十九号第一条第一項第五号に規定する訓練の実施計画を、下記のとおり作成しましたので確認願います。

記

１．訓練実施者

〇〇株式会社

※他団体と共同で実施する場合には、全ての実施者を記載すること

２．訓練の名称（開催番号）及び日程

①　保安管理業務訓練（第1回）令和〇年〇〇月〇〇日～〇〇日

②　保安管理業務訓練（○○○）令和〇年〇〇月〇〇日～〇〇日

３．募集定員

〇〇人

４．実施場所（複数の場所で実施する場合には、全て記入すること）

〇〇研修所　（住所）

５．参照ＵＲＬ（ホームページ又は募集ページ）

７．担当者連絡先

部署：

氏名：

電話番号：

Ｅｍａｉｌ：

開催実績がわかる説明書

例）

・ホームページ等により対外的にも講習等を案内、募集したWebページの添付

・講習等を実施している様子や報告書の添付

※電気保安に関する講演、研修、講習等を適切に開催した実績を有することを明確に記載。

※保安管理業務訓練実施者自らの団体等に在籍する者のみに対して実施されたものを除く。

宣誓書

　　年　　月　　日

住　所

氏　名（名称並びに代表者の役職及び氏名）

当社は、これまで法又は法に基づく処分に違反し、罰金以上の刑に処せられ、その執行を終わり、又は執行を受けることがなくなった日から２年を経過しない者が役員にいないことを宣言致します。

機械器具等一覧

保安管理業務訓練を行うために必要な教材、告示第２条の各号に掲げる機械器具並びに絶縁用保護具及び絶縁用防具並びに設備について、以下のとおり備えている。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| No. | 区分（名称） | 保有数 | 仕様 | 備考 |
| 1 | 座学教材 |  |  |  |
| 2 | 実習教材（点検の手法、訓練で使用するチェックリスト、報告書フォーマット） |  |  |  |
| 3 | 絶縁抵抗計 | ○台 | メーカー名・型式・試験電圧等 | （写真１参照） |
| 4 | 電流計 |  |  | （写真２参照） |
| 5 | 電圧計 |  |  |  |
| 6 | 低圧検電器 |  |  |  |
| 7 | 高圧検電器 |  |  |  |
| 8 | 接地抵抗計 |  |  |  |
| 9 | 騒音計 |  |  |  |
| 10 | 振動計 |  |  |  |
| 11 | 回転計 |  |  |  |
| 12 | 継電器試験装置 |  |  |  |
| 13 | 絶縁耐力試験装置 |  |  |  |
| 14 | 絶縁用保護具 |  |  |  |
| 15 | 絶縁用防具 |  |  |  |
| 16 | 模擬受変電設備（ＣＢ型及びＰＦ－Ｓ型） |  | ＣＢ形ＰＦ－Ｓ形 |  |
| 17 | 模擬低圧盤 |  |  |  |
| 18 | 模擬非常用予備発電装置（内燃機関を用いるものに限る。） |  | 内燃力（ディーゼル機関） |  |
| 19 | 模擬蓄電池設備 |  |  | ○○から借用（借用契約書参照） |
| 20 | 模擬電柱 |  |  |  |
| 21 | 模擬電線 |  |  |  |
| 22 | 模擬柱上気中負荷開閉器 |  |  |  |
| 23 | 模擬太陽電池発電設備（太陽電池モジュール及び支持物に限る。） |  |  |  |
| 24 | 比重計 |  |  |  |
| 25 | ＰＶ絶縁抵抗計 |  |  |  |

※必要なときに使用し得る措置として、借用契約書等があれば添付すること。

※各写真も添付すること。

（写真２）

使用する機器の写真

（写真１）

使用するテキストの写真

保安管理業務訓練カリキュラム

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 訓練日 | 時間 | 内容 |
| ○月○日（１日目） | 13:00 ～ 17:00（4時間） | 竣工検査等① |
| ○月○日（２日目） | 9:00 ～ 12:00（3時間） | 竣工検査等② |
| 13:00 ～ 15:00（2時間） | ○○ |
| 15:00 ～ 17:00（2時間） | ○○ |
| ○月○日（３日目） | 9:00 ～ 10:00（1時間） | ○○ |
| 10:00 ～ 12:00（2時間） | 月次点検 |
| 13:00 ～ 15:00（2時間） | ○○ |
| 15:00 ～ 17:00（2時間）  | ○○ |
| ○月○日（４日目） | 9:00 ～ 10:00（1時間） | ○○ |
| 10:00 ～ 12:00（2時間） | 太陽電池発電設備の点検 |
| 13:00 ～ 15:00（2時間） | ○○ |
| 15:00 ～ 16:00（1時間） | ○○ |
| ○月○日（５日目） | 9:00 ～ 12:00（3時間） | ○○ |
| 13:00 ～ 14:00（1時間） | ○○ |
| 14:00 ～ 15:00（1時間） | ○○ |
| ・・・ | ・・・ | ・・・ |
|  |  |  |

※参加者の休憩時間を考慮して時間設定すること。

※点検用機械器具の取扱方法や試験結果の判定、作業安全管理についての訓練を含むこと。

※科目ごとに、理解度を十分に確認すること。

保安管理業務訓練　規約（実施要項）

○○株式会社

　（制定）　年　　月　　日

（最終改訂）　年　月　日

|  |
| --- |
| ※下記内容を参考に規約等に約していただくようお願いいたします。　なお、別途それぞれに関する説明書で示していただくことも可。* 第２種電気主任技術者免状又は第３種電気主任技術者免状の交付を受けており、かつ保安管理業務講習を受講していること又は第１種電気主任技術者免状の交付を受けていること確認すること
* 同訓練の参加の申請をした者に対し当該者の所属等によって参加の許諾を判断することなく公正に取り扱うこと
* 保安管理業務訓練を毎年度１回以上開催することが明確に確認できる内容について
* 公募及び公示に関することについて
* 訓練内容について（運営方法、理解度確認をする旨等）
* 参加者の本人確認方法について
* 参加者の参加要件について（電気主任技術者免状の保有、保安管理業務講習の受講実績（第一種電気主任技術者免状の交付を受けている者を除く。）など）
* 講師の選定について
* 参加の申請方法及び参加料について
* テキスト及び配付方法について
* 参加にあたっての注意事項について
* 保安管理業務訓練の中止・キャンセル・疾病等のやむを得ない事情で欠席した場合の取扱い等について
* 補習等の実施について
* 修了証の発行・再発行及び交付方法について
* 参加記録の保存について
* 参加結果の報告について
* 個人情報の取扱いについて
 |

実習要領

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 科目 | 範囲 | 実施要領 |
| 竣工検査等＜１５時間＞ | 設計図面と設備等の照合 | ３チームに分け、参加者５名に対し講師１名で指導を行う。模擬受変電設備及びその設計図面により照合テストを行う。実習の最後に照合しないポイントを３箇所セットし、参加者が覚知できるかの確認テストを行う。＜３時間＞ |
| 工事期間中の点検（外観点検、ケーブル端末処理確認、ヒューズ容量確認等） | ・・・＜３時間＞ |
| 竣工検査（外観点検、絶縁耐力試験、指示計器校正試験、設備台帳作成等） | ・・・＜３時間＞ |
| 受電作業 | 実習体制は上述のとおり行い、模擬受変電設備及び気中開閉器を使用し、停電状態から受電までの作業を模擬的に行う。講師が見本を見せながら、参加者1人1人が必ず作業を行う。参加者同士で２人一組のチームを組み、参加者だけで作業が遂行できるか確認テストを行う。＜４時間＞ |
| 設置者への報告 | ・・・＜２時間＞ |
| 月次点検＜５時間＞ | 設置者への問診・報告 |  |
| 引込設備、受変電設備、電線路、負荷設備、発電設備、蓄電池設備の点検（外観点検、温度測定、電圧・電流測定、漏洩電流測定、非常用発電設備の始動試験等） |  |
| 年次点検＜３５時間＞ | 点検前準備（操作手順書の作成、打ち合わせ、安全用具・測定器確認等）・設置者への問診・報告 |  |
| 停電・復電作業（開放・投入作業、接地取付・取り外し） |  |
| 引込設備、受変電設備、電線路、負荷設備、発電設備、蓄電池設備の点検（掃除、外観点検、接地抵抗・絶縁抵抗測定、保護継電器・連動試験、非常用発電設備の自動起動・停止試験、蓄電池設備の電圧・比重・液温測定等） |  |
| 事故応動＜１０時間＞ | 設置者への問診・報告 |  |
| 低圧事故対応（絶縁監視装置発報時の初動、低圧回路での模擬漏電探査、復旧作業等） |  |
| 高圧事故対応（ヒューズ溶断・保護継電器動作時の初動、高圧回路での模擬漏電探査、復旧作業等） |  |
| 危険体験（危険体感設備での体験、事故動画の視聴等） |  |
| 太陽電池発電設備の点検＜５時間＞ | 太陽電池パネル・架台の点検 |  |
| 使用前自己確認の方法 |  |

※参加者の休憩時間を考慮して時間設定すること。

※点検用機械器具の取扱方法や試験結果の判定、作業安全管理についての訓練を含むこと。

※科目ごとに、理解度を十分に確認すること。

座学教材

例）

・自家用電気工作物保安管理規程（2023年度版）

・高圧受電設備規程（2020年度版）

・過去の事故事例解説

※座学で使用するテキスト一式を添付すること。

実習教材

例）

・点検手法の解説書（作業マニュアル、作業手順書等）

・訓練で使用するチェックリスト

・報告書フォーマット

※実習で使用する書類一式を添付すること。

擬設備等を使用しない方法により訓練を行う場合であって、当該模擬設備等

を使用する方法により行う訓練と同等以上の効果があることを説明する書類

　　年　　月　　日

１．擬設備等を使用しない方法により訓練を行う項目

２．当該模擬設備等を使用する方法により行う訓練と同等以上の効果について

３．その他